

鹿兒島県下甌島のジョウカイボン科

高橋和弘

〒 259-1217 平塚市長持 239-11

Records of the Cantharid Beetles from the Shimokoshiki-jima Is., Kagoshima Prefecture, Southwest Japan

Kazuhiro TAKAHASHI

下甌島は、九州の西、南シナ海にある島で、ジョウカイボン科に関しては、過去にセボシジョウカイ *Lycocerus vitellinus* (Kiesenwetter, 1874) (Okushima, 2005), コシキクロヒメジョウカイ *Rhagonycha* (*Rhagonycha*) *bicolor* N. Takahashi et Imasaka, 1997 (N. Takahashi & Imasaka, 1997), ヒメキンイロジョウカイ *Themus* (*Themus*) *midas* (Kiesenwetter, 1874) (今坂, 2002) およびクロスジツマキジョウカイ *Malthinus* (*Malthinus*) *mucoreus* Kiesenwetter, 1879 (N. Takahashi, 2010) の計4種に加えて、つい最近 Takahashi (2017) によって、サイシュウクビボソジョウカイ *Asiopodabrus* (*Satopodabrus*) *asperipunctatus* Kang et Okushima, 2003, チビクビボソジョウカイ *Asiopodabrus* (*Asiopodabrus*) *ochraceus* (Kiesenwetter, 1874), ミツメニンフジョウカイ *Asiopodabrus* (*Asiopodabrus*) *nakaoui* (Nakane, 1990), ハヤトクビボソジョウカイ *Asiopodabrus* (*Asiopodabrus*) *hayato*

(Nakane, 1989) の4種が追加され、計8種が記録されている。比較的最近、複数の甲虫研究者が相次いで同島を調査に訪れており、その際に採集されたジョウカイボン科の標本が筆者にもたらされた。それらを検討した結果、特産種であるコシキクロヒメジョウカイを除いて、ほとんどが九州本土と共通する種であったが、いくつかの新記録種が含まれることが明らかとなった。また、一部の *Asiopodabrus* 属に属すると考えられる標本は、雌個体みの種が多かったこともあるが、従来知見では種の同定が困難な色彩を呈する個体が含まれており、同定を保留せざるをえなかった。そこで、*Asiopodabrus* 属の雄個体を採集することを主目的として、筆者も2015年5月上旬に同島を訪れ調査を行った。その結果、なぜ同定が困難であったかという理由が明らかになるとともに、さらに新記録となる種が採集された。以上の結果、下甌島からは、

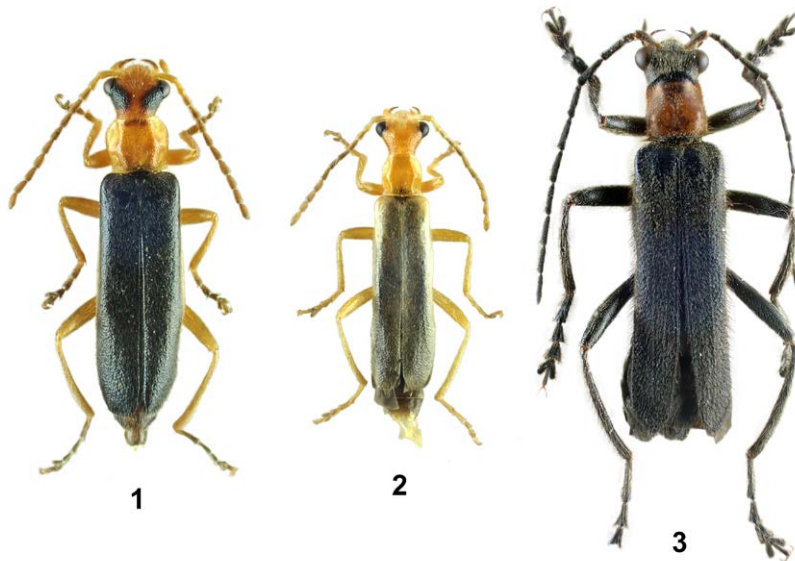


図1-3. 下甌島のジョウカイ。1, ハヤトクビボソジョウカイ; 2, チビクビボソジョウカイ; 3, ムネアカクロジョウカイ

7属12種のジョウカイボン科が記録されることとなったので、その概要をここに報告する。

なお、報告にあたって、下甕島におけるジョウカイボン科の文献記録についてご教示を賜った久留米市の今坂正一氏、標本を御恵与いただいた三浦市の大林延夫博士ならびに標本を検討する機会を与えていただいた徳島市の吉田正隆氏に厚くお礼申し上げる。

ジョウカイボン亜科 Subfamily Cantharinae

クビボソジョウカイ族 Tribe Podabrini

サイシュウクビボソジョウカイ *Asiopodabrus (Satiopodabrus) asperipunctatus* Kang et Okushima, 2003

1♀, 下甕島, 25–26. V. 2013, 大林延夫; 1♂, 下甕島尾岳 (alt. 430 m), 23. V. 2014, 吉田正隆; 1♀, 下甕島尾岳 (alt. 420 m), 23. V. 2014, 吉田正隆; 5♂♂, 5♀♀, 下甕島尾岳, 9. V. 2015, 高橋和弘; 7♂♂, 11♀♀, 下甕島林道西部線, 10. V. 2015, 高橋和弘; 1♂, 4♀♀, 下甕島林道東部線, 10. V. 2015, 高橋和弘。

本種は、済州島を基準産地として記載された種で、その後、対馬および九州本土にも分布することが明らかとなっている (Takahashi, 2012)。

ハヤトクビボソジョウカイ *Asiopodabrus (Asiopodabrus) hayato* (Nakane, 1989)

10♂♂, 10♀♀, 下甕島林道西部線, 10. V. 2015, 高橋和弘; 2♀♀, 下甕島しんきろうの丘, 10. V. 2015, 高橋和弘; 1♂, 下甕島林道東部線, 10. V. 2015, 高橋和弘。

本島産の個体は、前胸背が赤化する傾向が認められ、極端な個体は、前胸背全体が橙赤色を呈する (図1)。このような個体は九州本土からは知られておらず、本島独自の変異と考えられる。

ミツメニンフジョウカイ *Asiopodabrus (Asiopodabrus) nakaoui* (Nakane, 1990)

1♀, 下甕島尾岳 (alt. 310 m), 23. V. 2014, 吉田正隆; 2♀♀, 下甕島尾岳, 9. V. 2015, 高橋和弘; 52♂♂, 31♀♀, 下甕島林道西部線, 10. V. 2015, 高橋和弘; 2♂♂, 1♀, 下甕島しんきろうの丘, 10. V. 2015, 高橋和弘; 5♂♂, 5♀♀, 下甕島林道東部線, 10. V. 2015, 高橋和弘。

高橋が採集した個体は、そのほとんどがシイの花から採集された。個体数はひじょうに多く、本島の *Asiopodabrus* 属の中で、最優占種と考えられる。

ニシチビクビボソジョウカイ *Asiopodabrus (Asiopodabrus) neglectus* (Nakane, 1989)

1♀, 下甕島, 25–26. V. 2013, 大林延夫。

下甕島新記録である。残念ながら本種の雄は採

集されなかったが、体長および前胸の形態を九州本土産の個体と比較して本種と同定した。

チビクビボソジョウカイ *Asiopodabrus (Asiopodabrus) ochraceus* (Kiesenwetter, 1874)

1♀, 下甕島, 25–26. V. 2013, 大林延夫; 1♂, 5♀♀, 下甕島尾岳, 9. V. 2015, 高橋和弘; 20♂♂, 17♀♀, 下甕島林道西部線, 10. V. 2015, 高橋和弘; 3♂♂, 5♀♀, 下甕島しんきろうの丘, 10. V. 2015, 高橋和弘; 2♂♂, 2♀♀, 下甕島林道東部線, 10. V. 2015, 高橋和弘。

九州本土に分布する典型的な個体とは異なり、上翅が暗化する傾向が多く個体で認められた (図2)。このため、当初の得られた標本が雌個体ばかりであったため、ひじょうに同定が困難になったものと思われる。この島でみられる本種の色彩変異は、オリジナルの色彩とは異なり、むしろミツメニンフジョウカイに近い色彩になる点で、若干の収斂現象が生じている可能性も考えられ、興味深い。

ジョウカイボン族 Tribe Cantharini

クロヒゲナガジョウカイ *Habronychus (Habronychus) providus* (Kiesenwetter, 1874)

2♂♂, 下甕島, 25–26. V. 2013, 大林延夫。

下甕島新記録である。

セボシジョウカイ *Lycocerus vitellinus* (Kiesenwetter, 1874)

2♀♀, 下甕島, 25–26. V. 2013, 大林延夫; 1♂, 1♀, 下甕島尾岳 (alt. 310 m), 24. V. 2014, 吉田正隆; 1♀, 下甕島長浜 (alt. 30 m), 22. V. 2014, 吉田正隆; 1♂, 下甕島しんきろうの丘, 10. V. 2015, 高橋和弘; 3♂♂, 2♀♀, 下甕島林道西部線, 10. V. 2015, 高橋和弘。

ムネアカクロジョウカイ *Lycocerus adusticollis* (Kiesenwetter, 1874)

1♂, 下甕島長浜 (alt. 30 m), 22. V. 2014, 吉田正隆。

下甕島新記録である。交尾器の形態から本種と同定した。なお、本島産個体は、前胸背がやや黒ずむ点で、九州本土に分布する典型的な色彩の個体とは異なっている。

マルムネジョウカイ *Prothemus ciusianus* (Kiesenwetter, 1874)

1♀, 下甕島尾岳 (alt. 310 m), 23. V. 2014, 吉田正隆; 1♂, 下甕島尾岳, 9. V. 2015, 高橋和弘; 2♂♂, 3♀♀, 下甕島しんきろうの丘, 10. V. 2015, 高橋和弘; 6♂♂, 4♀♀, 下甕島林道西部線, 10. V. 2015, 高橋和弘。

下甕島新記録である。

コシキクロヒメジョウカイ *Rhagonycha (Rhagonycha)*

bicolor N. Takahashi et Imasaka, 1997

3♂♂, 12♀♀, 下甕島, 25–26. V. 2013, 大林延夫;
1♀, 下甕島尾岳 (alt. 310 m), 24. V. 2014, 吉田正隆;
1♂1♀, 下甕島尾岳 (alt. 420 m), 23. V. 2014, 吉田正隆;
1♂2♀♀, 下甕島尾岳 (alt. 430 m), 23. V. 2014, 吉田正隆;
1♀, 下甕島尾岳, 9. V. 2015, 高橋和弘; 3♂♂,
2♀♀, 下甕島林道西部線, 10. V. 2015, 高橋和弘; 1♀,
下甕島しんきろうの丘, 10. V. 2015, 高橋和弘; 2♂♂,
下甕島林道東部線, 10. V. 2015, 高橋和弘.

ヒメキンイロジョウカイ *Themus (Themus) midas*
(Kiesenwetter, 1874)

1♂, 下甕島, 25–26. V. 2013, 大林延夫; 5♂♂, 下甕島尾岳 (alt. 310 m), 24. V. 2014, 吉田正隆; 1♂, 下甕島尾岳 (alt. 310 m), 23. V. 2014, 吉田正隆.

チビジョウカイ亜科 Subfamily Malthininae

クロスジツマキジョウカイ *Malthinus (Malthinus) mucoreus* Kiesenwetter, 1879

6♂♂, 7♀♀, 下甕島林道西部線, 10. V. 2015, 高橋和弘; 1♀, 下甕島林道東部線, 10. V. 2015, 高橋和弘.

引用文献

- 今坂正一, 2002. 多良岳の固有種はどこからきたか. 佐賀の昆虫, (36): 481–526.
- Okushima, Y., 2005. A taxonomic study on the genus *Lycocerus* (Coleoptera, Cantharidae) from Japan, with zoogeographical considerations. Japanese Journal of systematic Entomology, Monographic Series, Matsuyama, (2): 1–383.
- Takahashi, K., 2012. A taxonomic study on the genus *Asiopodabrus* (Coleoptera, Cantharidae) of Japan. Japanese Journal of systematic Entomology, Monographic Series, (4): 1–359.
- Takahashi, N., 2010. Notes on *Malthinus mucoreus* (Coleoptera: Cantharidae), with descriptions of two new related species from the Ryukyus, Southwest Japan. Zootaxa, 2563: 53–68.
- Takahashi, N., 2017. New distribution records for *Asiopodabrus* species (Coleoptera, Cantharidae) from Kyushu and Ryukyus, Southwest Japan. Elytra, Tokyo, New Series, 7: 131–133.
- Takahashi, N. & S. Imasaka, 1997. A new species of the genus *Rhagonycha* (Coleoptera, Cantharidae) from the Koshiki-jima Island, off southern Kyushu, Japan. Elytra, Tokyo, 25: 79–83.

(2017年8月7日受領, 2017年8月22日受理)

【短報】チビケセスジエンマムシの八重山諸島の記録

チビケセスジエンマムシ *Epiechinus arboreus* (Lewis, 1884) は、奈良県春日山をタイプ産地とするエンマムシ科の微小甲虫であり、キクイムシのギャラリーに生息することが知られている (大原, 1996). 稀な種のように、奈良県春日山のほかに石垣島からの記録があるのみである (大原, 1996; 大桃, 1999).

平野は西表島から本種を採集したので初記録として、また、吉田は本種の石垣島からの追加記録として標本写真とともに報告する。

1ex. (図 1-A), 沖縄県西表島上原, 16. IV. 2017,

平野幸彦採集・保管. キクイムシの一種とともに採集.

1ex. (図 1-B), 沖縄県石垣市宇平得, 2. I. 2017, 吉田一樹採集・保管. 倒木のスピーイングで採集.

末筆ではあるが、同定ならびにご教示いただいた大原昌宏博士、本文の校閲をしていただいた吉富博之博士に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 大原昌宏, 1996. 日本産エンマムシ上科概説 II - ホソエンマムシ亜科, コブエンマムシ亜科, セスジエンマムシ亜科, アナアキエンマムシ亜科 - 甲虫ニュース, (114): 1–5.
- 大桃定洋, 1999. チビケセスジエンマムシの石垣島の記録. 月刊むし, (335): 40.



(平野幸彦 250-0865 小田原市蓮正寺 585-29)
(吉田一樹 790-0905 松山市樽味 3-5-7 愛媛大学農学部森林生態学研究室)

図1. 八重山諸島産チビケセスジエンマムシ. A, 西表島産; B, 石垣島産